

会議録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-4566-2511

附属機関又は 会議体の名称		平成29年度 未来戦略創出会議(第14回)
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		平成30年3月27日(金) 9時30分～10時30分
開催場所		庁議室(本庁舎5階)
議題		(1)ビルド・アンド・スクラップの見直しについて(検討状況報告) (2)基盤整備方針について(池袋駅周辺地域) (3)政策経営会議(第15回)結果報告
公開の 可否	会議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区行政情報公開条例第7条第1項第5号による
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	区長・副区長(2)・教育長・政策経営部長・総務部長・危機管理監・区民部長・文化 商工部長・環境清掃部長・保健福祉部長・健康担当部長・池袋保健所長・子ども家 庭部長・都市整備部長・地域まちづくり担当部長・土木担当部長・会計管理室長・教 育部長・区議会事務局長
	幹事	企画課長・財政課長・行政経営課長・区長室長・広報課長・総務課長・人事課長・選 挙管理委員会事務局長(欠席)・監査委員事務局長
	説明者	再開発担当課長、交通・基盤担当課長
	事務局	企画課企画調整グループ係長

審議経過

(1) ビルド・アンド・スクラップの見直しについて(検討状況報告)

幹事 資料に基づき、ビルド・アンド・スクラップの見直しの検討状況について報告。

平成 30 年度予算が過去最高を更新する中で、積極的な区政運営を行いつつ、持続可能な行財政運営を堅持するため、ビルド・アンド・スクラップを徹底し、事業の選択と集中を目指していきたい。現状としては、新規・拡充事業(ビルド)に対し、既存事業の再構築(スクラップ)等の割合が低く、枠内経費が増加傾向にある。

検討中の改正案であるが、まずスクラップの方法としては、現行、新拡充事業の事業費(一般財源)の一定割合を翌年度から 2 か年に分けてスクラップしているものを、所管課提案の新拡充事業の一部について事業費(一般財源)と同額を実施年度から 3 か年に分けてスクラップするというものである。また、スクラップ計画として、現行では特に規定をしていないが、改正案では、新拡充事業提案時に行政評価を活用しつつ、所管部局がスクラップ計画案を同時に提示するという仕組みを取り入れていきたい。なお、スクラップ対象とする事業については、法定事業や維持管理事業、単年度終了事業などは対象外とし、所管課提案事業のうちの任意事業を対象とする方向で検討している。

改正時期は、今後詳細な検討を行い、平成 31 年度分の新規・拡充事業提案時から実施できないかと考えている。この検討案をたたき台に、新たな持続可能な行財政運営を確立してまいりたい。

委員 施設運営など委託に切り替えることで事業費の縮減を行っている事業については、スクラップ対象から外すことも検討して欲しい。

幹事 検討課題と考えている。

区長 ビルドに対してスクラップが少ない状況になっているが、原因は何か。

幹事 積極的な区政運営を行う中で新たな事業を実施してきたが、既存事業の見直しが進んでいない面がある。

委員 ビルドとスクラップの差は、人件費の削減や税収増などで賄われてきた。同じような対応を続けることは難しいので、スクラップの割合を増やしていく必要がある。

副区長 これまでは事業の拡大を図りながら予算を組んでいた。今後のことを考えた場合、スクラップをする習慣を身に付けていこうという趣旨であり、今が変曲点といえる。

区長 新規に始めた事業などは、一定の時期に思い切った見直しをする必要がある。継続して実施する場合でも、経費を精査しながら成果を挙げるような工夫が必要である。あらゆる分野において見直しに取り組んでいく。

副区長 事業を見直す場合には、予算編成を始める時期では間に合わない。早目に検討を行う必要がある。

副区長 財政状況が厳しいのでスクラップをするのか、新拡充事業を始める場合はスクラップを出すという循環の仕組みを作るのか、そこははっきりさせた方が良い。

区長 今日の提案を各部局がしっかり受け止めて、整理をしながら取り組みたい。

⇒報告のとおり了承する。

(2) 基盤整備方針について(池袋駅周辺地域)

説明者 資料に基づき、池袋駅周辺地域基盤整備方針(案)について報告。

池袋駅周辺地域基盤整備方針の策定に向けて、基盤整備方針(案)のパブリックコメントを実施した。平成30年2月14日から3月9日までの期間において、11名、約40件の意見をいただいた。5月に決定をしていきたい。

基盤整備方針は、公共と民間との協力のもとに、池袋駅の機能更新と再編、駅前広場や道路などの公共施設の再編・拡充、駅周辺の街区再編や再開発等を一体的に行うことにより、限られた空間に多様な都市機能を集積しつつ、安全で快適な都市空間を創出することを目指すものである。土地利用の状況やまちづくりの課題等に着目したエリア設定や、池袋駅と東池袋駅の周囲をコア・ゾーンとして定めている。また、地域の個性を際立たせたまちづくりの展開として、4つの公園を核に周辺の民間施設との連携による交流、表現、発信の舞台、アート・カルチャー活動の拠点となるアート・カルチャー・ハブや、アート・カルチャー・スポットを育成していく。また、基盤整備の目標を掲げたうえで、駅関連施設や公園、防災・防犯施設、情報インフラなど主要基盤ごとの整備方針と取組み内容を示している。基盤整備の流れとしては、2020年東京大会までに整備を目指す事業、中長期的に実現を目指す事業を整理し、目標年次を2035年と定めている。

事業化に向けた取組みとしては、都市基盤の整備に関する調整と効果的な事業推進とともに、段階的な都市再生事業をつなぐ一体的な都市基盤整備の事業スキームの構築を掲げている。課題としては、主要な都市基盤施設整備と民間の開発整備の時期にズレが発生し、開発事業者へ公共施設整備の協力を求めることができないといったことがある。このため、民間からの公共貢献資金を一時的にプールし、事業実施に併せて拠出する基金を設置するなど、事業のタイムラグを埋める仕組みを構築したい。

委員 渋谷や新宿と違う池袋の都市再生の特徴としては、4つの公園がある。そしてハレザ池袋が象徴するように、公園と周辺施設が一体となってアート・カルチャー都市の機能を発揮していくことで、池袋の都市再生をアピールする良いチャンスと考えている。

区長 副都心線の東池袋新駅の設置は、整備方針の中にしっかり明記するように。

池袋駅周辺のまちづくりの姿が明確に見えてきた。区民にご理解いただくことが大事であり、様々な機会を通じて発信していくように。

副区長 都市基盤整備に関する協力金の受け皿となる基金の設置は、今後どのように進めるのか。

説明者 この基盤整備方針を決定した上で、基金の設置を図っていきたい。

⇒報告のとおり了承する。

(3) 政策経営会議(第 15 回)結果報告

各委員 資料に基づき、政策経営会議(第15回)結果について報告。

⇒報告のとおり了承する。

<p>会議の結果</p>	<p>(1)ビルド・アンド・スクラップの見直しについて(検討状況報告) (2)基盤整備方針について(池袋駅周辺地域) (3)政策経営会議(第 15 回)結果報告 →(1)～(3)について了承</p>
<p>提出された資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルド・アンド・スクラップの見直しについて(検討状況報告) ・基盤整備方針について(池袋駅周辺地域) ・池袋駅周辺地域基盤整備方針(案)に関するパブリックコメント等について ・池袋駅周辺地域基盤整備方針(案) ・一体的な都市基盤整備の実現に向けた(仮称)まちづくり推進基金の設置 ・平成 29 年度第 15 回政策経営会議結果報告書